

養護教諭を目指す学生の職業意識調査

川野 司*¹ 桑原 友希*²

*¹九州女子大学人間科学部人間発達学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

*²九州女子短期大学専攻科養護教育学専攻 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2011年11月1日受付、2011年12月5日受理)

要 旨

本研究は、養護教諭を目指す学生の養護教諭の職務に関する職業観や職業意識について調査したものである。また免許取得のための実習上の課題や成果を調査することで、実習を通して学生の職業意識が明らかになった。同時に、現場の養護教諭に同様の調査とインタビューを行い、学生と現場の養護教諭の職業観や職業意識について比較を試みた。

調査結果から、養護教諭を目指す学生が最も重視したい職務は、「子どもとのコミュニケーション」であることが分かった。また、調査をした学生と現場の養護教諭の全員が、「挨拶などの礼儀」を働くときに大切にしたいと考えていることが明らかになった。さらに、学生は子どもとのコミュニケーションの中で、共感的理解や共に考えていく姿勢を重視していることが明らかになった。また、挨拶などの礼儀は、職務や職種に関係なく社会人として必要とされる内容と認識されていた。そして、実習は職業観を理解し、職業意識を高めるための重要な学習になっていることが明らかになった。

I 研究課題

本研究は養護教諭を目指している学生に焦点を当てた「養護教諭を目指す学生の職業意識調査」に関するものである。今日、「職業観・就労観の涵養」、「主体的に進路を選択する能力・態度の育成」、「職業に必要な知識・技能の習得」を目的として、大学においてもキャリア教育が進められている。大学におけるキャリア教育は、大学生の就職難が問題になった就職氷河期の平成2（1990）年ごろから始まり、その就職難の状況は現在までも続いている。

佐藤史人は「それまでの学歴に対応した卒業者の予定調和的な進路選択が望めない状態になり、従来の進路指導や就職支援の活動に留まらないキャリア教育の必要性が認識され始めたといえる」と述べている⁽¹⁾。佐藤史人が言うように、現在、大学ではキャリア教育の重要性が高まり、各大学で様々なキャリア教育の展開が始まったところである。各大学では、幅広い職業意識の形成に着目した授業科目を設けたり、インターンシップ等を実施して、学生の職業観や職業意識の形成を図っている。

文部科学省の調査では、平成19（2007）年度の各大学のインターンシップ実施状況は大学で67.7%（昨年度65.8%）、短期大学43.6%（昨年度40.6%）、高等専門学校で100%（昨年度

98.4%)となっており、全校種で前年度の調査よりは増加していることがわかる⁽²⁾。文部科学省の大学分科会でも平成21(2009)年12月15日に「大学における社会的・職業的自立に関する指導等(キャリアガイダンス)の実施について(審議経過概要)」が報告され、多くの若者が大学へ進学しているとともに職種や形態が多様化する中で、大学教育を通じて、社会人としての基礎力や柔軟な人材の育成が求められると提言している⁽³⁾。このように、政策面でも大学生へのキャリア教育は大変重要な取組として推進されている。

養護教諭養成課程を持つ九州女子短期大学専攻科修了生の進路・就職率は平成22(2010)年度現在では、82%が養護教諭や学校支援員として学校現場で働いている。その他には公務員や販売等の民間企業への就職が9%ずつとなっており、多くの学生が自分の職業として養護教諭を選択している。実際に養護教諭を目指す学生は、どのようにして自分の職業を選択しているのだろうか。その理由は学生それぞれに違いはあるだろうが、「自分のお世話になった養護教諭に憧れを持った」、「教員の中で養護教諭は評価をしない特別な存在」などいろいろ考えることができる。

そこで、本研究の目的は、こうした状況を踏まえながら職業観や職業意識に視点を当て、養護教諭を目指す理由と職務で重要と考えていること等の実態を解明したい。また、免許取得のために行われる実習への期待を調べることで、実習を通して学生の職業意識を明らかにしていきたい。さらに、現場で養護教諭として働いている教員に同様の調査とインタビューによる聞き取り調査を行い、学生と現場の養護教諭との職業意識の比較から、養護教諭としての現場の考え方や実践について学んでいきたい。

II 研究方法

1. 予備調査

予備調査の対象は、福岡県北九州市九州女子短期大学の子ども健康学科に在籍する1年生74人、養護教育科に在籍する2年生61人、専攻科養護教育学専攻に在籍する2年生5人の合計140人を対象とし、無記名で自由記述の調査を実施した。

調査は授業時間に行い、調査用紙はその場ですべて回収した。なお自由記述は、下の表1の4つの内容について回答を求めた。

表1 自由記述調査の内容

- | |
|---|
| <p>①あなたが養護教諭を目指している動機は何ですか。</p> <p>②あなたが養護教諭として働くとき、どのような職務を積極的に行うべきだと思いますか。理由も合わせてお答えください。</p> <p>③あなたが養護教諭として働くとき、大切にすべきことは何だと思いますか。</p> <p>④免許取得のためには3つの実習が行われますが、実習を通してそれぞれの職業への意識の変化はありましたか(終了した実習のみ記入してください)。</p> |
|---|

そして次に、この自由記述の回答をもとに「養護教諭を目指す理由を10項目」、「養護教諭の職務で重視したいことを12項目」、「働くときに大切にしたいことを10項目」、の計32項目を本調査項目として作成した。さらに4番目の視点として、学生には「実習で学びたいこと」の自由記述を、また現場の養護教諭には、「働いて感じた事や気づいたこと」の自由記述を求めた。

そして作成した本調査用紙の回答内容について、不明な箇所や回答しにくい項目はないかどうかを確かめるために再度、専攻科生2年生に本調査用紙に回答してもらい、解答しにくい内容や質問の意味が不明確な箇所を修正して、下の本調査用紙を完成させた。

養護教諭を目指す学生の職業意識に関するアンケート

本研究では、養護教諭を目指す学生の職業意識調査を行っています。お忙しいところ恐縮ですが、アンケートにご協力をお願いします。まず、学年について次のどちらかに○をつけて下さい。

- 1 子ども健康学科1年 2 養護教育科2年

下の各問いの質問について、1から4の番号に○をつけてください。

(1) あなたが養護教諭を目指している理由をお答えください。

4：当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

- | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---|
| 01. 養護の先生に良くしてもらい憧れたから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 02. 養護の先生は評価をしない点など他の教員とは違う存在だから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 03. 養護の先生の仕事内容に興味・関心があったから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 04. 学校が好きで学校現場で働きたいから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 05. 子どもの気持ちを理解し支えになりたいから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 06. 子どもの現状から心身の健康を守る手助けをしたいから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 07. 人の相談に乗るのが好きで気持ちを理解するのが得意だから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 08. 医療や福祉について興味があったから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 09. 養護の先生が好きになれなかったから | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10. 公務員であり給料がよく安定しているから | 4 | 3 | 2 | 1 |

(2) 養護教諭の職務についてあなたが重視したいことをお答えください。

4：重視する 3：やや重視する 2：あまり重視しない 1：重視しない

- | | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|
| 11. ヘルスカウンセリングを伴う心身のケア | 4 | 3 | 2 | 1 |
|------------------------|---|---|---|---|

12. 健康に関すること（健康診断・健康観察・健康相談など）	4	3	2	1
13. 不登校・登校拒否・特別な支援を必要とする子どもへの対応	4	3	2	1
14. 子どもとのコミュニケーション	4	3	2	1
15. 救急処置	4	3	2	1
16. 書類・個人情報の管理	4	3	2	1
17. 校内巡回し安全点検や情報収集を行う	4	3	2	1
18. 年間の保健行事や保健指導	4	3	2	1
19. 子どもや保護者、職員のニーズを把握する	4	3	2	1
20. 雰囲気の良い保健室づくり	4	3	2	1
21. 食物アレルギーやアトピーの子どもへの対応	4	3	2	1
22. 食中毒・感染症などの予防	4	3	2	1

(3) あなたが働くときに大切にしたいことをお答えください。

4：大切にす る 3：やや大切にす る 2：あまり大切にす ない 1：大切にす ない

23. 専門的知識やコミュニケーション能力	4	3	2	1
24. 子どもや保護者、教員その他関係機関と信頼関係を築き連携する	4	3	2	1
25. 子どもへの愛情と優しさを持ち共に考えていく姿勢	4	3	2	1
26. プライバシーの保護	4	3	2	1
27. 子ども一人ひとりを大切にす 平等に対応する姿勢	4	3	2	1
28. 自己管理をきちんとす て心に余裕を持ち笑顔や思いやりを持つ	4	3	2	1
29. 挨拶などの礼儀	4	3	2	1
30. 子どもの背景を知り主訴を理解する	4	3	2	1
31. プロとして責任感を持ち冷静な判断をする	4	3	2	1
32. 子どもの目線に立ち共感的理解や受容する姿勢	4	3	2	1

●学生

(4) 免許取得のためには教育実習・病院実習・施設実習が行われます。それぞれの実習で、どのようなことを学んでいきたいか自由記述でお答えください。(終了した実習については何を学んだかをお答えください。)

1、教育実習 2、病院実習 3、施設実習

●養護教諭

(4) 実際に養護教諭として働いて感じたことや気付いたことをお答えください。

2. 本調査

本調査は、福岡県北九州市の九州女子短期大学に在籍する学生に実施した。対象は子ども健康学科1年生74人と養護教育科2年生55人に行った。また、九州女子短期大学を卒業し、養護教諭として働いている4人にも同様の調査を行った。学生への調査は授業時間を使って直接協力依頼をして、所要時間を10分設け、調査用紙はその場で回収した。現場の養護教諭への調査は、調査用紙を直接郵送した。また、現場の養護教諭のうち2名にインタビューによる聞き取り調査を行った。

実施期間は、学生への調査は平成23(2011)年7月11日(月)の2限目と4限目に分けて行った。現場の養護教諭への調査は、郵送による調査を8月8日(月)から8月25日(木)までの間に行った。また、インタビューによる聞き取り調査は、8月25日(木)と8月27日(土)に行った。

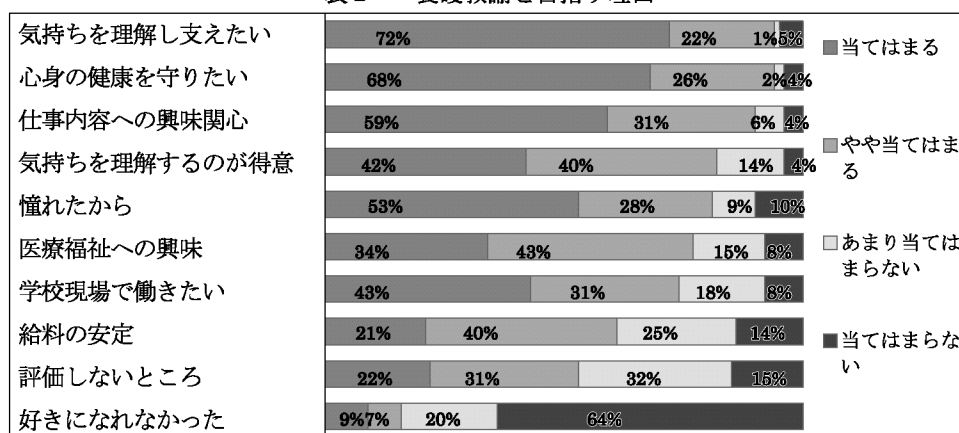
III 結果

調査結果は下記のとおりであった。なお、学生と現場の養護教諭に実施した調査用紙の回収率は100%であった。以下の表2から表4のグラフは、調査用紙の回答のうち、順序尺度の4と3を込みにして「肯定的な回答」、2と1を込みにして「否定的な回答」として、「肯定的な回答の多いものから並び変えた。

1. 養護教諭を目指す理由

学生及び現場の養護教諭に養護教諭を目指す理由を尋ねたところ、表2のようにまとめられた。

表2 養護教諭を目指す理由



学生が養護教諭を目指す理由の10項目の中で、「当てはまる」と回答した割合が最も高かった項目は、「子どもの気持ちを理解し支えになりたいから」(72%)であった。2番目に割合が高かった項目は、「子どもの現状から心身の健康を守る手助けをしたいから」(68%)であっ

た。

ここからは、子どもを理解し守りたいという気持ちが感じられた。

一方、学生が養護教諭を目指す理由として、「当てはまらない」と回答した割合が最も高かった項目は、「養護の先生が好きになれなかったから」(64%)であった。

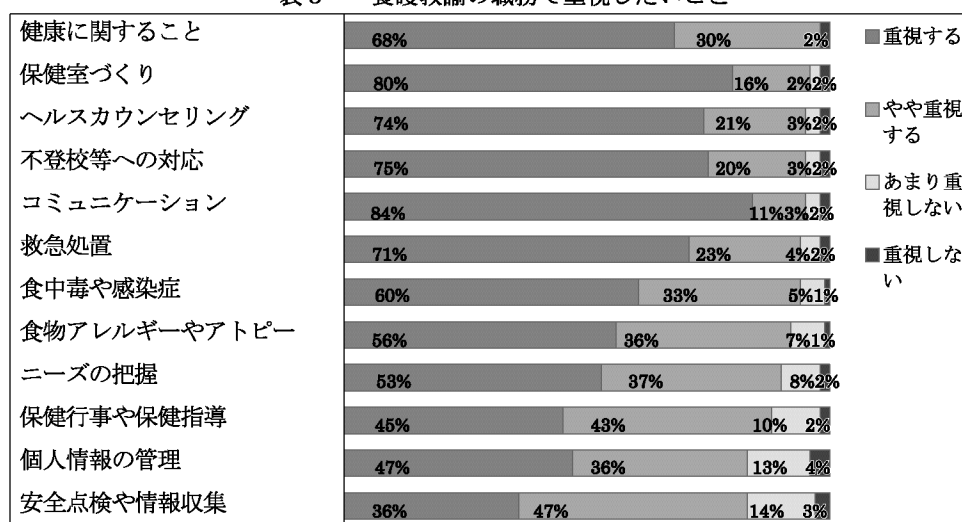
さらに現場の養護教諭に行った調査では、養護教諭を目指した理由として最も多かった項目は、「養護の先生の仕事内容に興味があったから」(75%)、「学校が好きで学校現場で働きたいから」(75%)であった。

ここから、現場の養護教諭は、現場や職業への興味から養護教諭を目指したことがわかった。

2. 養護教諭の服務

養護教諭として働くときに、どのような職務を重視したいかを尋ねたところ、表3のようになった。

表3 養護教諭の職務で重視したいこと



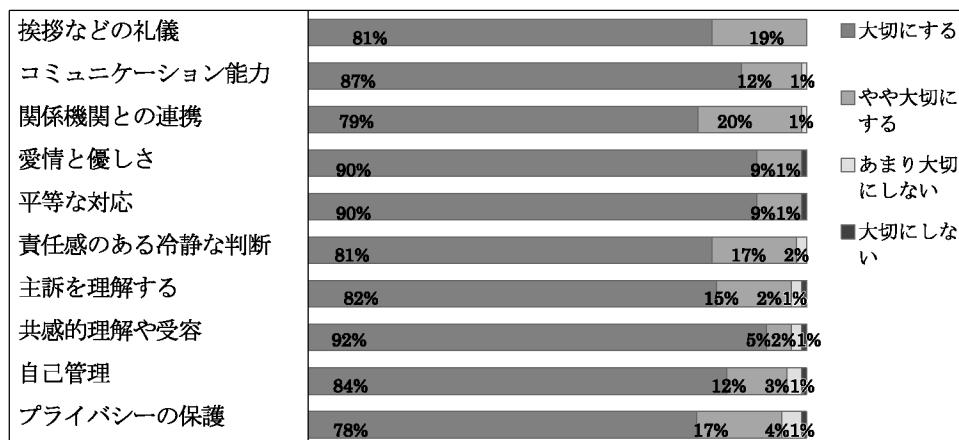
学生が養護教諭として重視したい職務として、「当てはまる」と回答した割合が最も高かったのは、項目11「ヘルスカウンセリングを伴う心身のケア」から項目22「食中毒・感染症などの予防」の12項目の中の「子どもとのコミュニケーション」(84%)であった。そしてこのことは、現場の養護教諭に行った調査でも「子どもとのコミュニケーション」を最も重視していることが分かった。

学生が養護教諭として重視したい職務として、「当てはまる」と回答した割合が2番目に高かったのは「雰囲気の良い保健室づくり」(80%)で、3番目に高かったのは「不登校・登校拒否・特別な支援を必要とする子どもたちへの対応」(75%)であった。

3. 職務上の留意点

養護教諭として働くときに、具体的な職務以外の面で大切にしたいことは何か尋ねたところ、表4のようになった。

表4 働くときに大切にしたいこと



学生が働くときに大切にしたいことの10項目の中で、「当てはまる」と回答した割合が最も高かったのは、「子どもの目線に立ち共感的理解や受容する姿勢」(92%)であり、2番目に回答した割合が高かったのは、「子どもへの愛情と優しさを持ち共に考えていく姿勢」(91%)であった。

このことから、学生は子どもたちへの対応の仕方を大切にしたいという思いが感じられた。

現場の養護教諭に対して、働くときに大切にしていることを問うたところ、「自己管理をきちんとし心に余裕を持ち笑顔や思いやりを持つ」と「挨拶などの礼儀」がともに100%の回答であった。

このことから、現場の養護教諭は、社会人として自分自身の振る舞いを大切にしたいという思いが感じられた。

4. 学生による実習での課題と成果

1年生は教育実習・病院実習・施設実習の3つの実習でどんなことを学びたいか、また、2年生には教育実習で学んだこと、及び病院実習・施設実習で学びたいことを尋ねたところ次のような結果になった。

(1) 教育実習

実習が終了していない1年生に、教育実習で学びたいことを自由記述で尋ねたところ、下の表5の①から⑦の7つのキーワードでまとめることができた。

表5 教育実習で学びたいこと (1年生)

①子どもの目線に立ち、気持ちを理解する	②養護教諭の大変さや現場の厳しさ
③実際の現場を知り、どのような養護教諭になるべきか考える	④学校のシステム
⑤コミュニケーション能力やカウンセリング方法	⑥全体的な仕事内容
⑦他の教員との連携	

学生が最も実習で学びたいと思っていることは、「コミュニケーション能力やカウンセリング方法の習得」や「子どもの目線に立ち、気持ちを理解する能力を身につけたい」という、メンタルヘルスに関する内容であった。他には、「養護教諭の大変さや現場の厳しさを学びたい」「他の職員や関係機関との連携について学びたい」という回答もあった。

また、「将来、養護教諭として働くイメージを膨らませたい」「実際に養護教諭として学校現場に立ち、自分なりの養護教諭像を見つけない」という積極的な回答も多く、職業観を考える機会としたいという思いが感じられた。

実習の終了した2年生に、教育実習での学びを自由記述で尋ねたところ、下の表6の7つのキーワードでまとめることができた。

表6 教育実習で学んだこと (2年生)

①個人や集団に応じた子どもへの対応の仕方	②子どもや教育現場の実態
③職員や保護者との連携や情報の共通理解の必要性	④救急処置
⑤養護教諭の仕事の難しさや厳しさ	⑥感染症について
⑦プライバシーの保護に関すること	

子どもや教育現場の実態を知ることができたという回答が多く、具体的には「実際に子どもと関わることで、私が養護教諭として大切と考える子どもの気持ちや心のケアについて学ぶことができた」というものであった。また、養護教諭という職業における仕事の難しさや厳しさを感じた学生も多く、養護教諭に関して新たな職業観を持った学生もいた。

(2) 病院実習

病院実習は1・2年生とも終了していないため、病院実習に期待する学習内容を自由記述で尋ねたところ、下の表7の9つのキーワードでまとめることができた。

表7 病院実習で学びたいこと

①子どもに多い疾患を知る	②アレルギーへの対応	③薬品の取扱い
④患者様とのコミュニケーションの取り方	⑤病院全体の仕事	⑥命の大切さ
⑦救急処置と病院での処置の違い	⑧養護教諭との共通点	⑨学校との連携

養護教諭を目指す学生ということもあり、学校との連携や養護教諭の仕事と病院での仕事の共通点を知りたいという回答が多く、「医療的な専門知識を学び、保健室で活かせるようにしたい」という声もあった。病院の特性を生かした学びでは、薬品の取扱いや命の大切さを学びたいという回答があった。また、患者様とのコミュニケーションの取り方を学びたいという回答もあった。

(3) 施設実習

高齢者施設実習は1・2年生とも終了していないため、施設実習に期待する学習内容を自由記述で尋ねたところ、下の表8の7つのキーワードでまとめることができた。

表8 施設実習で学びたいこと

①利用者様への接し方、コミュニケーション	②介護現場の現状	③介護方法
④施設や環境面の整備、施設ごとの工夫	⑤施設での仕事内容	⑥心身のケア
⑦働くことの大きさ		

病院実習と同様、利用者様への接し方やコミュニケーションを学びたいという回答が多く、人と人との関わりや、心身のケアに関する学習内容を期待していることが分かった。また、環境や設備面の整備や施設ごとの工夫等、利用者様のことを考えた環境作りを学びたいという回答もあった。高齢者施設ということで、介護現場の現状や介護方法を学び、福祉の現場で大切なことを身に付けたいという回答があった。

5. 現場の養護教諭による成果

現場の養護教諭に、実際に養護教諭として働いて感じたことや、気付いたことを尋ねたところ、下の表9の5つのキーワードでまとめることができた。

表9 養護教諭として働いて感じたことや気付いたこと

①他の教員より専門性を求められる	②他の教員が助けてくれることも多い
③子どもにしっかりと対応する時間が取れない	④全員の疾病等の把握が難しい
⑤臨機応変に対応する能力が必要	

現場の養護教諭の回答からは、実際の現場での困難さや現場の現状を知ることができた。新卒であろうとも、養護教諭は子どもの心身の健康に関する専門性があるとみなされ、他の新任教諭とは違う立場であるという回答や、担任や各教員との連携、情報交換が大切であるという内容が多かった。

インタビューによる聞き取り調査では、「学生の頃は、養護教諭の仕事について細かいことも理解できていたが、実際の現場ではその知識が生かせない。前年の資料も無く、何をすれ

ばいいのか分からない。」という意見や、「症状の判断、保健室利用のさせ方などで、保護者や他の教員との認識の違いがあるので判断に困る。」という意見があり、養護教諭として現場で働くときの困難さを感じた。

IV 考察

調査の回答からは、養護教諭として重視したい職務や意識について、学生の職業観や職業意識を知ることができた。また、現場の養護教諭の回答からは、働きながら実践で感じる職業意識を知ることができた。調査用紙の回答のうち、順序尺度の4と3を込みにして「肯定的な回答」、2と1を込みにして「否定的な回答」として、(1) 養護教諭を目指す理由、(2) 職務で重視したいこと、(3) 働くときに大切にしたいこと、の3つの大項目について考察をしていきたい。

1. 養護教諭を目指す理由について

どんな職業を目指す場合でも、目指す理由は大変重要である。理由が不明確で曖昧なものは、目標を見失いやすくなるからである。そのため、まず養護教諭を目指す理由について尋ねた。

この問いで最も割合が高かった項目は、「子どもの気持ちを理解し支えになりたいから」であり、約9割以上の学生が肯定的に回答している。また、同じく約9割の学生が回答したのが「子どもの現状から心身の健康を守る手助けをしたいから」である。どちらにも、子どもを理解し守りたいという気持ちが強く感じられた。子どもに関わる事件や事故などの問題が多く発生している現在、子どもを守るという意識が働いているものと思われる。

本来、養護教諭は学校の中でも専門的知識を持ち、評価をしない点などから他の教員とは違う存在だと考えられている。このことが、養護教諭が子どもを一番守りやすい立場にあることにつながるのだろうか。例えば、養護教諭は虐待やいじめを一番に発見しやすい立場にいられている。これは、養護教諭の職務である、健康診断や健康観察において子どもの心身の変化を発見しやすいからである。

2. 養護教諭の職務で重視することについて

この問いで最も割合が高かった項目は、「子どもとのコミュニケーション」であり、約9割以上の学生が肯定的に回答していた。子どもとのコミュニケーションは、養護教諭だけではなく、教員全体の職務として重視されるべきものだと強く感じた。

中学校の教育現場が求める養護教諭の専門性について、福岡市立中学校の校長に行った先行研究と比較しながら、養護教諭の職業観を考えていく。この先行研究は、福岡市立中学校の校長を対象にしたものであるが、本研究は養護教諭を目指す学生を対象にしたものである。

先行研究と本研究を比較してみると、中学校校長の認識と学生の考えには多少の違いがあることが明らかになった。

中学校校長が養護教諭の職務では、救急処置が最も重要だと考えているのに対し、学生では救急処置は5番目に重視したいこととして挙げられていた。なぜこのような差が生じてしまうのだろうか。救急処置は、専門的技術が必要とされるため、他の教員では十分な対応ができない領域である。一方、子どもとのコミュニケーションは、教員全体で対応していくものである。養護教諭の役割として、子どもの心身の健康問題の早期発見や早期対応が挙げられており、早期発見のためには子どもとのコミュニケーションを日頃から職務として重視すべきであると考えているのではないだろうか。また、同様の調査で、現場の校長は養護教諭に最も身に付けさせたい専門性として、メンタルヘルスの領域を挙げている。そのことから、養護教諭は子どもとのコミュニケーションの中で、メンタルヘルスケアを行うことができれば、現場で求められる働きができるのではないだろうか。

3. 働くときに大切にしたいことについて

養護教諭として働く上で、どんなことを大切にしたいかを尋ねたところ最も割合が高かった項目は、「挨拶などの礼儀」であり、調査した全員が大切にしたいと答えている。どのような職業に関しても、基本的な挨拶や礼儀などを身に付けるべきだという当然の認識があることが分かった。

養護教諭として働くときに大切にしたいこととして挙げた問23の「専門的知識やコミュニケーション能力」から問32の「子どもの目線に立ち共感的理解や受容する態度」の10項目すべてにおいて、肯定的な回答が9割以上であったことから、これらの項目すべてが、養護教諭として働くときに大切にしたいことだと考えることができる。

4. 実習で学びたいこと

(1) 教育実習

実習を終えていない1年生は、学校で勉強していることが、どのように現場で実践されているのかを学びたいという意見がいくつかあった。この結果から、大学での勉強がどのように実践で活かせるのか分からないという疑問を持つ学生もいるのではないだろうか。大学で行われる授業の中で職業観や職業意識を育てていくには、もっと現場の実践に基づいた教育内容が必要とされる。学校で学ぶ養護教諭の仕事内容やカウンセリング方法等は、基本的なものであり、現場で子どもや保護者と接していくのは、決して学校の教科書の様には進まないものである。大学でも、ロールプレイや事例検討等、現場の実践に近い学習が行われている。それでも養護教諭の勉強を始めたばかりの1年生にとってはまだ、現場での実践や取組が想像しにくい状況にあるのではないだろうか。その他には、学校全体の組織や学校独自の

教育方法を学びたいという回答もあった。学校の職員は、クラス担任や養護教諭等の一般的な役割以外にも、学校内の様々な仕事を分担して行っている。教育実習では、養護教諭としてだけでなく学校で働く職員としての学びが期待されている。

実習を終えた2年生からは、学校現場の現状や現場での実践を知ることができたという回答が多くみられた。書類等の事務作業や環境整備は、大学の勉強だけで身に付くものではなく、実践を通して学ぶことで身に付くことも多いと思われる。また、学校によっては養護教諭の職務にも違いが生じてくる。

教育実習では、それぞれ養護教諭の細かい職務や保健室以外での仕事を体験することができたようだ。実習を通して、養護教諭という職業の魅力を再確認したという意見もあったが、一方で、子どもへの対応の難しさや養護教諭の厳しさと困難さを学んだ学生もいた。実際に子どもやその他の教員と接してみなければ、困難さを感じることはできないのである。難しさや困難さを知り、養護教諭という職業観を育てるものであり、実習での大切な学びの一つであると言える。

(2) 病院実習

養護教諭の職務では、学校医や学校歯科医など病院との連携も重要である。自由記述の内容からは、学校との連携を学びたいという回答が多かった。養護教諭は、学校医・学校歯科医・学校薬剤師等と密接に関係を持つことが必要である。病院実習では、養護教諭の立場からではなく病院の立場から、学校との連携を考えることにより、職業意識を高めることができると考えられる。また、養護教諭の専門的知識として、子どもに多い疾患や救急処置を学びたいという回答もあった。病院実習では、実際の患者様を前に様々な症例を学ぶことができる。養護教諭として、子どもたちを前に素早い判断を求められる場面も多く、実際の患者様を見ることができるといえるのは、大変重要な学習であると言える。その他には、病院全体の仕事や運営についても学びたいという回答もあった。養護教諭の免許を取得する学生は、医療事務等の免許も同時に取得しようと考えている学生も多いため、医療に対する関心も高いものと考えられる。

(3) 施設実習

施設実習では、利用者様とのコミュニケーションや心身のケアを学びたいという回答が多かった。大学では、実際に利用者様と接する機会は少なく、コミュニケーションの取り方やどのようなケアが必要なのか知ることができないため、実習での学びは大変重要である。また、施設における設備と環境面での工夫や問題点など、利用者様のことを考えた環境作りに興味を持つ回答もあった。これは環境や設備の工夫を知り、養護教諭として保健室づくりをする際に役立てたいという思いからだと考えられる。施設の仕事情況や介護の現状、介護方法な

ど実践的な学びを期待する回答も多く、福祉への関心も高いことが感じられた。介護方法などは、大学で実習として勉強するが、実際に様々な症状を抱えた利用者様を相手にすることは施設実習という実践の場でないと学べないことである。このような福祉に関する職業観も施設実習を通して高められていくものと言える。

(4) 養護教諭として働いて感じたことや気付いたことについて

「症状の判断や保健室利用の感じ方がそれぞれ違うので判断に困る」という回答から、共通理解の必要性を感じた。専門的知識を持った養護教諭と専門的知識を持たない他の教員とでは、重症度の判断などにおいて違いが生じることもある。そのような場合は、専門的知識を持つ立場として明確な判断基準の下に、他の教員の理解を得る必要がある。保健室利用についても共通理解が必要である。細かい保健室の利用方法を子どもや保護者、他の教員と共通理解をすることも大切である。養護教諭として、学校の中で保健室をどのような空間にしたのか、という思いもきちんと発信していくことが、よりよい保健室経営に繋がると考える。養護教諭は、各学校に1人または2人しかいないという立場にあるが、学校現場での養護教諭の職務内容は多岐にわたり、重要な存在であると言える。だからこそ、養護教諭はより高い職業意識を持つ必要がある。

V まとめ

養護教諭を目指す学生は、養護教諭は「子どもとのコミュニケーション」を重視すべき職業であると考えていた。コミュニケーションを図る中で、「子どもの目線に立ち共感的理解や受容する姿勢」や「子どもへの愛情と優しさを持ち、共に考えていく姿勢」を大切にしたいと考えていた。これは、現場の養護教諭も同様に考えており、学生が養護教諭という職業に対し、理解を深めていることが明らかになった。また、学生と現場の養護教諭が全員大切だと回答している項目は、「挨拶などの礼儀」であり、職種や職務に関係なく社会人として必要とされている内容と認識されていた。その他には、各実習を通して、養護教諭への理解を深めた学生や医療福祉への関心を高めた学生も多く、実習が職業観や職業意識を高めるための重要な学習になっていると考えられる。

注

- (1) 伊藤一雄・佐藤史人・堀内達夫『キャリア開発と職業指導—大学・高校のキャリア教育支援—』法律文化社 67-123頁 2011年
- (2) 文部科学省「大学等におけるインターンシップ実施状況調査」(平成23年9月22日現在)

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2010/04/16/1259257_1_1.pdf

- (3) 文部科学省 「大学における社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）の実施について（審議経過概要）」（平成23年9月22日現在）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1288248.htm

参考文献

- (1) 小橋愛子「中学校の教育現場が求める養護教諭の専門性－福岡市立中学校の実態調査から－」、平成23年度学修成果論文 2011年
- (2) 仁平征次・垂石嘉昭・野添雅義・垂石幸与・角幸子『インターンシップ－職業教育の理論と実践－』学文社 2001年
- (3) 森昭三『これからの養護教諭－教育的視座からの提言－』大修館書店 1991年

Research by students seeking a nursing teacher professionalism

*¹Tsukasa KAWANO *²Yuki KUWAHARA

*¹Department of Education and psychology, Faculty of
Humanities, Kyushu Women's University

1-1Jiyugaoka Yahatanishi-ku, Kitakyushu-Shi Hukuoka 807-8586 Japan

*²Advanced School-Nursing course at Kyushu Women's Junior College

1-1Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-Shi, 807-8586, Japan

Abstract

This study is a survey on attitude to work and professionalism of teachers on the job-seeking students nursing nursing teacher. By examining the practical challenges and achievements for obtaining licenses also revealed that students' professionalism through training. At the same time a similar survey and interviews conducted in the field of nursing teacher, and tried to compare views on vocational nursing teacher professionalism in the field with students. The survey results, most important job you want is a nursing teacher seeking students, "Communication with children" turned out to be. In addition, all of the nursing teacher and student surveys in the field, "such as a courtesy greeting," revealed that important when it wants to work to. In addition, students in communication with the child, showed a stance that emphasizes both thinking and sympathetic understanding. Also, the respectful greeting, such as had been necessary to what is recognized as members of society regardless of profession or duties. And vocational training to understand the sense, it became clear that a key to learning to enhance professionalism.

Key words: Overview Nursing Teaching Theory School of Health Science Theory